

5月26日（土）

11:00	日本音楽知覚認知学会 理事会		
12:55	開会挨拶		
口頭発表1 座長：大田健紘（日本工業大学）			
13:05	<JSMPC2018(1)-1> <MA2018-05>	JM 勝呂明央（八戸工業大学大学院・工学研究科），三浦雅展（八戸工業大学・工学部）	両耳間定位を利用した量子化精度の異なる音源の弁別可能性～非音楽経験者の場合～
13:35	<JSMPC2018(1)-2> <MA2018-06>	JM 山口翔也（八戸工業大学大学院・工学研究科），三浦雅展（八戸工業大学・工学部）	定額制音楽配信サービスのための聴取状況に最適なサビメドレー推薦システムの開発
14:05	休憩		
特別講演 司会：松本じゅん子（長野県看護大学）			
14:15	<JSMPC2018(1)-3> <MA2018-07>	岩宮眞一郎（日本大学・芸術学部）	[特別おもしろく講演] （（音））のデザイン
15:15	休憩		
ポスター発表（※発表者全員が日本音楽知覚認知学会ポスター選奨の対象）			
15:30	<JSMPC2018(1)-4> <MA2018-08>	M 福本まどか（八戸工業大学大学院・工学研究科），三浦雅展（八戸工業大学・工学部）	テンポ変動楽曲の事例分析に基づくリタルダンドの印象評価～「威風堂々」第一番の場合～
	<JSMPC2018(1)-5> <MA2018-09>	北村柚葵（東京学芸大学大学院・教育学研究科，国立精神・神経医療研究センター・精神保健研究所），北洋輔，奥村安寿子（国立精神・神経医療研究センター・精神保健研究所），奥住秀之，石川裕司（東京学芸大学大学院・教育学研究科）	小児期の音楽経験が音高弁別能力に与える影響
	<JSMPC2018(1)-6> <MA2018-10>	M 牧野晃大（立命館大学大学院・情報理工学研究科），新妻雅弘，井本柱右，山下洋一（立命館大学・情報理工学部）	ヘブナーの円環モデルを用いた非和声音の聴覚的効果の定量的評価
	<JSMPC2018(1)-7> <MA2018-11>	津崎実，前川典子，大澤智恵（京都市立芸術大学）	模擬難聴聴覚フィードバック下でのピアノ演奏の変容について
	<JSMPC2018(1)-8> <MA2018-12>	松村拓磨（同志社大学大学院・生命医科学研究科），鷲野七海（同志社大学・生命医科学研究科），小林耕太（同志社大学大学院・生命医科学研究科）	ミリ秒間隔知覚のメカニズムの検討：特定の時間間隔への順応が時間縮小錯覚に与える影響
	<JSMPC2018(1)-9> <MA2018-13>	西村杏香，梁愛奈，小林耕太（同志社大学大学院・生命医科学研究科）	音楽が伴う際の言語理解における脳活動の変化
	<JSMPC2018(1)-10> <MA2018-14>	杉原美貴，山崎陽一，片平建史，長田典子（関西学院大学理工学部），浅川香，平野仁，山崎貴司，木村勝（三菱電機）	擬似重低音がもたらす心理的・生理的影響の分析

16:30	休憩		
開催地特別企画 オーガナイザー：森下修次（新潟大学）			
16:45	豊岡鬼太鼓保存会 新潟大学教育学部森下ゼミ学生一同	地元と学生で作る祭りの伝統～佐渡市豊岡地区の事例～	
17:15	日本音楽知覚認知学会 総会		
18:00	懇親会：佐渡加茂湖温泉 湖畔の宿 吉田家 (http://yosidaya.com/)		

5月27日（日）

口頭発表2 座長：津崎実（京都市立芸術大学）

9:00	<JSMPC2018(1)-11> <MA2018-15>	J 高岡良、袋井勇樹、山田真司 (金沢工業大学)	THE IDOLM@STERにおける キャラクタ音声とキャラクタ・ ソングの研究	TVゲーム、「アイドルマスター」は、多くのアイドル候補生をアイドルに育成するゲームであるが、本研究では、候補生である時の声（声優の声）と育成後のCDの歌の聴取印象を比較した。その結果、CDの歌は、候補生の頃の声を持つ特徴をより強調したものになっていることが分かった。
9:30	<JSMPC2018(1)-12> <MA2018-16>	J 佐々木累二、山田真司（金沢工業大学）、冬木真吾（日本コロムビア(株)）	記録媒体による楽曲印象の違い	4曲の音源素材を、アナログレコード、カセットテープ、CD、UHQ-CD、ハイレゾで収録し、これらの聴取印象の評定実験を行った。その結果、美的因子、迫力因子、明暗因子が抽出された。それぞれの媒体の印象に特徴があることが示された。また、この印象空間上でUHQ-CDとCDの間でも聴取印象に差があることが分かった。
10:00	<JSMPC2018(1)-13> <MA2018-17>	大田健統、峯隼人（日本工業大学・工学部）	ドラム打叩時の手首屈伸筋の共収縮水準と筋電位について	ドラム奏者はドラムスティックを持って手首を上下させ、打面を叩いてドラムを演奏する。そのため、手首屈伸筋における共収縮水準が低いほうが良い打叩動作と考えられる。しかしながら、高い共収縮水準を示す熟練者も存在することが他の研究者により報告されている。そこで本研究では、熟練者の共収縮水準が高くなる原因について、筋電位の大きさも合わせて比較することで明らかにした。

10:30	休憩		
-------	----	--	--

口頭発表3 座長：谷口高士（大阪学院大学）

10:45	<JSMPC2018(1)-14> <MA2018-18>	高野佐代子（金沢工業大学・メディア情報学科）	歌唱の口パク生成および知覚の研究	近年、プロが歌った音声を用いて、一般人があたかも歌っているようないわゆる口パク動画を撮影し、両者を合わせて動画投稿サイトなどに投稿するのが流行した。それらのうち、いかにも歌っているように見える動画とそうでないものが存在する。それらの口パク映像の違いを明らかにするために、本研究では、生成者側の発声運動および呼吸運動に着目した実験を行う。
11:15	<JSMPC2018(1)-15> <MA2018-19>	正田悠（立命館大学・総合科学技術研究機構）、大西左希子、阪田真己子（同志社大学・文化情報学部）	音楽聴取による身体運動：楽曲の感情価および聴取者の要因	音楽には「思わず身体を動かしてしまう」という身体的アフォーダンスの特徴があるといわれる。本研究では、大学生24人にクラシックおよびポップス計30曲を聴取してもらい、音楽聴取時の身体運動にいかなる特徴があるかを3軸加速度計を用いて計測した。その結果、聴取者のパーソナリティ（非言語表出性）が音楽聴取時の身体動作を決定する重要な要因であることが示唆された。
11:45	<JSMPC2018(1)-16> <MA2018-20>	豊島久美子（大阪樟蔭女子大学・児童学部）、服部安里、竹内麗子、福井一（奈良教育大学・教育学部）	合唱は利他性を高める	近年、音楽と社会性に関する研究が注目されている。我々は音楽科教育（合唱活動）が生徒の社会性を高めるということを、経済ゲーム（DG）および心理テスト（Barcelona Music Reward Questionnaire等）を用いて検証した。その結果、合唱は生徒の利他性を増すことが明らかになった。本研究の結果は教科の存在意義を問われて久しい音楽科に新たな目標を見出す一助となるだろう。加えて、音楽の機能や意味に関する重要な視点をも提供すると考える。

12:15	授賞式および閉会挨拶（12:30 閉会予定）		
-------	------------------------	--	--

口頭発表 講演時間：発表20分、質疑応答8分、交代2分

各発表者の前についているアルファベットは下記を示します。

- J: 日本音楽知覚認知学会 研究選奨対象
- M: 日本音響学会音楽音響研究会 奨励賞対象
- JM: 両賞とも受賞対象